

保護者の皆さま

藤沢市立善行小学校
校長 田中 香里

学校づくりアンケートの結果について（報告）

暖かな日差しに春を感じるようになりました。この1年間、本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございました。

善行小学校では、毎年「学校づくりアンケート」を実施してまいりました。今年度は、このアンケート結果を学校教育目標に照らし合わせ、達成度を検証し改善策に活用したいと考えました。そこで、①項目数と内容②保護者の対象学年③アンケート方法などについて見直しをいたしました。

見直しにつきましては、学校運営協議会での質問・ご意見を参考にし、職員会議での検討を経て、下のようなアンケート内容になっています。

- ・回答者：全校児童 1・4・6年保護者 学校運営協議会委員
- ・実施期間：2月中旬～3月上旬
- ・アンケート回答方法：Google フォーム ※自由記述欄は無し

アンケートの結果から見えてくる本年度の本校の傾向や特徴、今後に向けての方策について次のとおりご報告いたします。

<児童>

A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

No.	振り返ること	A	B	C	D
1	学校は楽しい	45	46	6	2.6
2	先生や友だち、地域の人にあいさつをしている	37	49	12	1.8
3	先生や友だちの話をしっかり聞いている	46	48	4.7	0.8
4	学校やクラスのきまりを守って過ごしている	37	57	6.3	0.5
5	学校の授業は、わかりやすい	43	47	8.4	2.3
6	授業や学習にいっしょうけんめい取り組んでいる	57	38	3.9	0.5
7	人のいやがることを言ったり、したりしないようにしている	40	47	11	1.8
8	いじめなど、もしこまったことがあったら、話を聞いてくれる先生や友だちがいる	44	39	12	3.9
9	何でも好き嫌いなく食べている	34	41	21	3.7
10	手洗いうがいを自分からするようにしている	45	46	9.1	0.3
11	1日1回は運動をしている	52	31	13	3.7
12	学校であったことや先生の話在家で話している	46	32	18	3.4
13	自分には良いところがあると思う	29	43	17	11

- 「学校は楽しい」と迷わず答えられるよう、安心・安全な学校づくりに努めます。
- 「あいさつをしよう」「はなしをきこう」「きまりをまもろう」については、生活の基本としてきちんと身につけたいと考えます。声に出してあいさつするの
が苦手な児童もいますが、本人なりに返しているのを感じています。「相手に伝わるあいさつ」を一緒に考えていきます。
- 「自分にはよいところがあると思う」の評価が思っていた以上に低く残念です。一人一人の子どもに「良いところ」があると日頃の様子から実感していました。子ども自身が「良いところ」を認められるような言葉かけ・働きかけを考え、教職員全体で共通理解をもって実践していきます。

<保護者> A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない

		(%)			
No.	評価項目	A	B	C	D
1	学校は学校教育目標や教育活動の様子を保護者にわかりやすく伝えている	25.9	63	11	0.9
2	子どもたちは、あいさつをしている	20.5	63	13	2.7
3	子どもたちは、人の話をしっかり聞いている	15.2	68	17	0
4	子どもたちは、学校のきまりやルールを守って生活している	40.2	52	8	0
5	学校は、一人一人を大切に授業づくりに努めている	25.9	63	11	0.9
6	学校は、落ち着いて学習できる環境づくりに努めている	25.9	67	7.1	0
7	学校は、保護者の相談に適切に応じている	42.9	49	5.4	2.7
8	学校は、子どもの話を丁寧に聞き、いじめ防止に努めている	31.3	57	9.8	1.8
9	子どもは、好き嫌いなく食事をしている	35.7	35	24	5.4
10	学校の施設・設備は、十分に整備されている	36.6	59	3.6	0.9
11	学校や学級からの配布物には、目を通して	52.7	45	1.8	0.9
12	学校は、各種たより等で学校の様子をわかりやすく伝えている	41.1	51	8	0
13	学校は、保護者や地域の方々の支援や協力を受けている	35.5	58	4.5	1.8
14	子どもは、学校が楽しいと言っている	44.6	39	15	0.9

- 項目1の学校教育目標の伝え方については、学校だより2月号から学校教育目標を記載するようにいたしました。「ともに学びあい 心豊かな人となる」よう、授業、行事などを含めた学校生活の充実に努めます。
- 「話を聞く」ことは、学校の様子から聞く力がどの学年でも育っているのを感じています。学校だけでなく、家庭・地域など、どこであっても「話を聞く」力を身につけたいと考えます。
- 今回の回答率が約5割でした。お知らせするのが遅かったこと、回答期間が短かったことが要因だと考えています。来年度はこの反省を踏まえて、より良い学校づくりに保護者の皆さまにもご協力いただけるよう工夫します。

<職員による自己評価>

		(%)			
No.	評価項目	A	B	C	D
1	学校教育目標は、児童の実態を踏まえており、教職員の共通理解が図られている	59	41	0	0
2	学校教育目標は、保護者・地域の願いが反映されている	32	64	4.5	0
3	学校教育目標に沿った教育活動を行っている	50	50	0	0
4	子どもたちは、あいさつをしている	14	73	14	0
5	子どもたちは、人の話を聞く態度が育っている	9.1	82	9.1	0
6	子どもたちは、決まりを守って生活している	18	82	0	0
7	一人一人を大切に授業づくりに努めている	68	32	0	0
8	チームによる学校・学年経営に取り組んでいる	73	27	0	0
9	校内研究の推進や自己研鑽のための研修に努めている	64	36	0	0
10	教職員は、共通理解に基づいた児童理解に努めている	73	27	0	0
11	支援教育・いじめ防止への取り組みの充実に努めており、児童支援担当教諭を中心とした校内支援体制が構築されている	68	32	0	0
12	保健部や食育部と連携した食教育の充実に努めている	55	32	14	0
13	学校事故防止体制の充実に努めている	55	45	0	0
14	様々な個人情報について適切な管理に努めている	41	59	0	0
15	学校は教育方針や教育活動の様子について各種たより等でわかりやすく伝えている	41	59	0	0
16	学校運営協議会が設置され、学校づくりについて有意義な協議がされ、その内容を知っている	55	45	0	0
17	学校は、保護者や地域に、参観等の教育活動を公開する機会を適切に設けている	45	55	0	0

- 教職員の項目数は、これまで6領域25項目でしたが、学校教育目標の「重点目標」と「めざす子ども像」に沿いつつ整理しました。
- 項目4・5は重点目標のうち2つになります。「あいさつ」につきましても、声に出してあいさつするのが苦手な児童もいますが、本人なりに返しているのを感じています。自分なりに返しているのが「相手に伝わるあいさつ」になるよう、子どもたちとともに考えていきます。まずは、教職員がそのお手本を示す意識をもって取り組みます。また、話を聞く態度については、有効な手立てを共有しながら育てていきます。
- 項目7の授業づくりは、令和7年度に藤沢市研究推進校としての発表を控えています。

それに向けて、校内研究のテーマを「子ども一人一人が充実感を得られる授業づくり」とし、授業研究に努めています。来年度も引き続き取り組み、子ども一人一人が充実感を得られるのか、それをどう見とるのかなどさらに検証と検討を重ねます。

<学校運営協議会委員>

No.	評価項目	(%)			
		A	B	C	D
1	学校教育目標は、児童の実態を踏まえており、教職員の共通理解が図られている	43	57	0	0
2	学校教育目標は、保護者・地域の願いが反映されている	14	86	0	0
3	学校教育目標に沿った教育活動を行っている	29	71	0	0
4	子どもたちは、あいさつをしている	43	43	14	0
5	子どもたちは、人の話を聞く態度が育っている	57	43	0	0
6	子どもたちは、決まりを守って生活している	43	57	0	0
7	一人一人を大切に授業づくりに努めている	86	14	0	0
8	チームによる学校・学年経営に取り組んでいる	43	57	0	0
9	教職員は、共通理解に基づいた児童理解に努めている	57	43	0	0
10	支援教育・いじめ防止への取り組みの充実に取り組んでおり、児童支援担当教諭を中心とした校内支援体制が構築されている	14	86	0	0
11	食教育の充実に取り組んでいる	14	86	0	0
12	学校事故防止体制の充実を図っている	29	71	0	0
13	様々な個人情報について適切な管理に努めている	43	57	0	0
14	学校は教育方針や教育活動の様子について各種たより等でわかりやすく伝えている	71	29	0	0
15	学校運営協議会が設置され、学校づくりについて有意義な協議がされている	57	43	0	0
16	学校は、保護者や地域に参観等の教育活動を公開する機会を適切に設けている	71	29	0	0

■項目2、3の結果から、地域と協働し地域性を活かした学校運営や学校教育目標に沿った教育活動などについては、保護者・地域の願いをどのように吸い上げ反映していくのか今後、具体的な取組を検討していかなければならないと考えます。

■項目4の「あいさつ」につきましては、保護者、教職員も同じように感じています。特に、校内で直接子どもたちに会っていただく機会が多いので、「来校者へのあいさつ」について、具体的な手立てを講じていきたいと考えます。

■項目7の授業づくりについては、教職員の自己評価でも述べたように力を入れているところです。授業を参観してのご意見と受け止め、とても励みになりました。

★「学校運営協議会」は全5回開催されました。この「学校づくりアンケート」につきましては、検討の段階から参加していただき、全校児童・保護者・教職員による自己評価のアンケート結果を見ていただき、多くのご示唆、感想をいただきました。ありがとうございました。

- ・掲示物みて、作品ができたことの喜びは自己肯定感を高める一つの手立てとしてとらえてもよいと思う。
- ・自己肯定感の低さは大人も同様。「そこが良いんだよ」のように、日常性の中で上向きになれる言葉を発していくことが大切。
- ・子どもは元気で楽しそう。先生が楽しそうに授業をしているのを見て安心した。
- ・工夫した授業づくりをしている。
- ・低学年は褒められることが多い。一方で高学年は、謙遜する気持ちもあるのではないか。内に秘めている自己肯定感はあると思う。
- ・生活の大半を過ごす学校の存在は大きい。教員も子どもも活気に溢れている。
- ・地域と学校をどう繋いでいくのか、行政としての関りを考えていきたい。
- ・普段見られない学校の様子を見ることができた。
- ・教職員と直接顔を合わせる機会が持てることに期待している。

これらの結果を学校運営協議会、教職員とともに共有し、今後の改善に向けて具体策を検討・協議し、今後の学校づくりに活かしていきます。

ご協力ありがとうございました。